

**令和6年度文京区アカデミー推進協議会
第1回分科会(学習活動分野)概要記録**

日	時	令和6年8月2日(金) 18:30～20:09
会	場	文京シビックセンター21階 2103会議室
出 席 委 員		座長 田中 雅文 東田 英輔、五十嵐 幸輝
欠 席 委 員		阿部 裕子、三浦 武裕
事 務 局		川崎アカデミー推進部アカデミー推進課長 猪岡真砂中央図書館長 石川アカデミー文京所長（シビックホール館長兼務） 眞野アカデミー推進課アカデミー推進係長
資 料		次第、令和6年度第1回アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。) 資料第2-1号、資料第2-2号
(議事) 1 議題 ◎委員意見 ◆事務局説明		1. 令和5年度の事業実施状況の点検・評価について ① <u>分野別基本方針 だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり</u> 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。 ◎定量的に指標の達成状況を見ることについて、全ての分科会に共通して言えることだが、令和5年度は、コロナの5類移行という特殊なファクターがあるので、それを踏まえて数字を評価すべきである。 ◎いきいきアカデミア講座について、高齢者への周知はどのように行っているのか。また、教養課程や専門課程の具体的な内容を知りたい。高齢者においては、コロナ期間を通してフレイルの問題もあり、本講座に積極的に関わることは重要と考える。 ◆いきいきアカデミア講座の周知では、ホームページ、スクエア、区報等に掲載している。今年度に関しては、60名の定員に対して、それを超える申し込みがあり、一定程度周知が図れていると考えている。学習内容については、教養課程では、文京区を知ることが目的に区の現状や課題を学んでいる。先日の講座では、区職員の工夫によりわかりやすかったと大変好評であった。専門課程では、ミュージアム加盟館でのミュージアム見学や、学芸員の説明を受けてレポートを作成し、単位を取得する形である。 ◎生成AIの活用を検討しているか。また、eラーニングについて、ソフトやコンテンツを作ることに賛成だが、既存のアプリケーションにも有効的なものが多く存在しており、既存の優れた言語学習ツールのライセンスを区が所有し、活用することも可能ではないか。

	◆AIの活用に関しては、今のところ積極的に行う方針はないが、活用方法については考えていきたい。eラーニングについて、現状は日本女子大学のサーバを活用しているが、既存のものやYouTube等にも学習動画は多数掲載しているので、今後の展開について考えたい。 ◆補足だが、生成AIについては、昨年度に中小事業振興を所管する経済課長と文京アカデミー所長と意見交換したことがある。当時、中小企業向けとしては関心がでてきており、東京商工会議所と連携した講座を昨年度ごろから開始し、申込も多数あった。財団の事業としては、これからだが、情報交換していた背景がある。 ◎既に図書館の蔵書は充実しているので、アクセス数をどのように増やすかが課題である。今は様々なことを携帯電話で見ることができるため、図書館に足を運んで本を探すことはハードルが高い。関心事をきっかけに、図書館へ行く流れが自然なので、先に関心を与え、動機づけることが大切になる。例えば簡単にアクセスできるSNS等を利用して、小説のあらすじを掲載するなどの取り組みをすると良いではないか。 ◆関心を与えるような取り組みが重要な視点であると認識しているが、積極的に行えていないため課題である。現在区民で図書館を利用している人の割合が3割～4割程度ということもあり、新たな層の獲得が必要だと考えている。そのような中で区の事業とのタイアップに取り組んでいる。昨年度は、文京区で行った藩校サミットに関連した企画を行うなど、藩校サミットに関心のある人が、図書館に来てみようと思える取り組みを行った。今後も図書館に来ていない方を取り込む企画を検討していきたい。 ◎文京eラーニングについては、関心がある分野である。実現性はあるとおもうが、現状メニューは多くないしジャンルの偏りもあると思っている。またYouTubeとの差別化がなく、文京区のホームページからeラーニングを開く人よりも、直接アクセスしやすいYouTubeを開く人が多いと考える。共倒れをするならば、アクセスしやすいYouTubeに一元化する方法もあるのではないか。 ◆eラーニングについては、日本女子大学のサーバを借りて財団が行っている。区の公式YouTubeは広報課が所管しており、TCNでの運用と認識している。そのため、すぐに統合することは難しいが、集約したページをつくることは可能であると思う。区所有の映像集約については、アカデミー推進課と相談していきたい。 ◎中央大学法学部が茗荷谷にあり、法律関係の研究者が集まっている。法律分野は区民にも関わりがあるので、活用できると文京区らしさがでるのではないか。 ◆例示として中央大学法学部の話があったが、ご存じの通り文京区は大学が非常に多い場所である。我々が講座をつくるときも、大学との生涯学習担当者会議があり、そこで各大学が持っているリソースを使った講座の開講をお願いしている。実際に各
--	--

	大学から上がってくることもあり、昨年度は中央大学の理系講座等の作成に至った。法学部はまだだが、相談していきたい。 ◎いきいきアカデミア講座の教材はどのようなものを使っているのか。 ◆いきいきアカデミア講座について、1年目の教養課程では、文京区を知ろうということで、1学期は区の所管がそれぞれの教材を作成している。2年目の専門課程も同様に、各ミュージアムで作成している。アカデミア講座の場合は、それぞれの講座用のテキストを使用している。 ◎いきいきアカデミア講座の教材費は誰が負担しているのか。 ◆教材費ではなく、受講料が2年間で5千円である。通常のアカデミア講座の場合は、受講料を徴収し、ミュージアムに入館する場合は、別途個人負担である。 ◎図書館の来館者数は増加が望ましいが、来館者数のデータはとっているのか。 ◆現時点ではとっていない。今年度から来年度にかけて、全ての書籍にICタグを貼付し、その後ICタグのゲートを各図書館に設置予定である。ゲートを取り付けると来館者数の把握ができると考えている。 ◎そのゲートは人が通れば反応するものなのか。 ◆その通りである。 ◎基本方針にあるバリアフリー化について、在住外国人に向けた取り組みはあるか。 ◆現在文京アカデミーの講座等で外国語対応しているものはない。日本語が理解できる人であれば、国籍は問わない。 ◎今後、日本語を学びたい外国人特化型の講座等を検討したら良いと思う。 ◎北欧の生涯学習施策では、大人の学習をサポートする成人学習センターなどが充実している。ヨーロッパでは移民に対する学習支援も充実している。委員が言っていた外国人への支援がもう一歩進められたら良いと考える。 ◎アカデミア講座の新たな主体とは何か。また、実施講座の具体的な内容分析結果が欲しい。また達成状況においても、代表例として具体的な記述が欲しい。 ◆新たな主体に関しては、大学などを考えている。大学との関係を築き、アイデアを
--	--

	募りたいと考えている。ほかには、交流都市やミューズネットの加盟館、地域の団体などに講師をお願いできたら良いと考えている。一般的に継続すべきメニューは倍率の高い講座であるが、固定化は望ましくないので、極力多彩な講座を実施できるよう考えている。提供すべきメニューは受講者の年齢層が高めなので、生産年齢層が受講可能な夜間や土曜日の講座を増やしていきたい。 ◎「だれもが学びを实践できる支援の充実」では、平日夜間、休日実施の講座数が昨年度に比べて減少し、生涯学習相談件数も減少している。対策は施したようだが、その狙いと具体策の内容の記述が欲しい。その上で、令和6年度の結果について、来たる時に評価すべきと考える。 ◆平日夜間、休日実施の講座について、受講者数は増えているが、講座数は減っている。メセナ講演会や特別公開講座について、これまで平日にやっていたものを、土曜日に行った関係で受講者数が増加した。狙いは生産年齢層の受講である。実際に特別公開講座等については、若年層も来ていたので、引き続きこの体制を続けていきたい。 ◎令和5年度は「電子図書館周知強化月間」の設定が功を奏した。令和6年度以降も、同様の施策を継続するのか。 ◆強化月間は今年度も引き続き行う予定である。電子書籍は図書館のなかでも貸出が増えている部分であるので力を入れて実績を増やしていきたい。 ◎「身近な学習環境の充実」では、「文京eラーニング」のアクセス数が激減している。メニュー減少の影響とあるが、その打開策について具体策な詳述が欲しい。 ◆この状況を良しとは思っていないので、コンテンツと環境について、今後検討していきたい。 ②分野別基本方針 学び続けるための活動の支援 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。 ◎基本方針の学び続けるためにに関して、どのような人にフォーカスしているのか。 ◆高齢者や子供に限るものではなく、幅広い層を対象としている。 ◎キャリアアップ支援について、具体的にどのようなことをしているか。それから、施設の利用を増やすのに一番簡単な方法は魅力度をあげることと考える。例えばメセナ的な、区内企業の協力を仰ぐことはしているのか。
--	---

	◆キャリアアップ支援は、日本女子大学の事業に相乗りする形で、独自では行っていない。大学でつくったものを受講する場合に、対象であれば補助する形なのであまり自由度はない。積極的に新しい事業をできるかという現状難しいところもあり、経済課等でも様々な施策があると思うので、それらで補完するものと財団でやるものの棲み分けを考えていきたい。 ◎利用数がなかなか伸びないのは、大学の努力が足りないことが原因か。 ◆大学側の努力が足りない訳ではなく、ほとんどがオンデマンドの講座のため、顧客層に合わないことが原因である。 ◆財団で準備する資格取得のキャリアアップ講座でも、大学と連携してやっていくものは高齢者が比較的多く参加するので、参加者数が伸びていない部分がある。経済課で行っている事業に、リカレント教育の受講料助成事業があり、こちらは 65 歳未満で現在就労していないがスキルアップして再就職を目指す講座を受ける場合、最大 12 万円程度助成するものである。こちらは、問合せも多数あった。IT 関係の資格を取るためなど、様々な形で興味を示し活用が進んだ。 ◆メセナに関して、区内企業と情報共有する場はあり、ボランティアで協力していただくことはあるが、メセナ的なものはここ数年見られない。 ◆メセナに該当するかわからないが、区内の6大学と連携して、区民が大学図書館を利用できる取り組みを行っている。 ◆単純にメセナで見返りなくお金を出してもらえるようなものはなかなかない。 ◆区内の大企業は地域貢献に積極的であり、区と連携しているものもあるが、お金の直接支援は難しい。 ◎キャリアアップ講座について、漠然と資格を取る人は少なく、その先に目標があるから資格取得を目指す場合が多いので、動機づけが先に来ることが自然な流れである。そのため、資格の活用方法を見せることが良いのではないか。そのロールモデルが文京区民であるとなおよいと考える。また動機づけよりも難しいのが継続性であるので、これに関してもモチベーション維持を応援するような形を見せられると良い。関連して、指標を受講者数で評価しているが、継続率や合格率は把握しているのか。 ◆講座内容については、就職後に活かせるものもある。ただ客層的に高齢者が多いので、キャリアアップよりは自身の知識の確認に利用している方が多い。しかし、高齢者だけが受講すれば良いものではなく、若年層の方にも受けていただきたい。また、ロールモデルをみせることは良い取り組みであると思うので考えていきたい。
--	--

	◎区民の社会教育関係団体への参加を促す方法について「例えば、〇〇〇のような施策」といった例示が欲しい。 ◆社会教育関係団体の登録があるので、ホームページで周知を行い、問い合わせに応じて案内している。引き続き新たな参加への取り組みをしていきたい。 ◆生涯学習フェアと体験教室ウィークを財団で行っていて、各アカデミー施設を使っているサークルの発表の場の提供とともに、新規加入者の勧誘も行っている。こちらに参加しているサークルに関しては、基本的に社会教育関係団体登録をした上で使用しているので、加入者を増やす具体的な策としては、このようなものが挙げられる。活動団体が減っていることに対しては、アカデミア講座で学び続けたいという要望があるが、継続して行えるとは限らないので、受講者が直接講師と連絡をとって、サークルを立ち上げ、団体登録するよう促そうと考えている。 ③ <u>分野別基本方針 学びの循環による地域づくり</u> 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。 ◎アクティビティを支えている方が高齢化していることに加え、新しい方が入らない状況にあり、今後働きたい方が増える中で、サステナブルではないと感じる。継続していくための具体的な策を伺いたい。 ◆若い方を勧誘するために、初めて土曜日に養成講座を行ったことで、これまでよりも若い層が中心となった。学習士の講習も文京学院大学と相談しているが、生産年齢層が参加しやすい方法で考えているので、少しずつ前に進めたいと思っている。 ◎公共の為に働く人材の確保は難しい。対価が無ければ動かないので、お金でなくとも、生活する中の優遇等の対価を与えられるとよいのではないかと。文京学講座については、区外に向ける視点があるとよい。夜間の講座開設について、地域資源を生かす意味では、公共施設がどう活用されているか、活動時間を把握し、できるかぎり使うことを検討してはどうか。 ◆基本的にボランティアなので、何も対価をのけない状況である。ミューズネットに割引価格で入場できるなど、さらなる生涯学習の推進につながるものがあれば良いと思うので検討していきたい。文京学講座については、昨年まで地域史を地元の方が語る人気の高い講座をやっていた。定員になるまでは区民のみを受け付け、区外の方は余裕があれば受講できる。こちらも映像を撮ってアーカイブ配信する予定で、eラーニングとあわせて将来的に公開できれば良いと考えている。地域資源の活用について、講座を行うためには周知等を行う必要があるので、空いている場所を使って行うのは難しい。公共施設ではないが、夜間や土日に大学の自主講座の開催をお願い
--	---

	するなど、区内大学との連携は行っていく。
2 閉会	